

第1級公認審判員講習会(2021-2022シーズン)

トラック・ロード・シクロクロス・MTB・BMX(レーシング)検定結果と講評(実施済み分)

令和4年9月13日

日本自転車競技連盟 審判委員会

委員長 松倉信裕

標記講習会を、2018年度以来3年ぶりに実施しましたが、現時点で実施済みの検定結果についてご報告いたします。

受講者は各種目定員10名程度(計50名程度)に対して、37名の応募がありました。その中で本連盟公認審判員規程第14条第3項第3号の規程に基づく書類審査により、受講に適格と認められる計30名(延べ45名)の受講者を決定いたしました。

次いで、「ライセンス種類別講習カリキュラム最低時間配分基準」並びに「第1級公認審判員検定評価項目・基準」に基づき、1月に共通事項に関する講義をオンライン・リモート形式で、2月から3月にかけて各競技種目専門の講習会と筆記検定を実施しました。その結果、計20名(延べ25名)が筆記検定に合格しました。筆記試験合格者は今年度6月以降に開催する各種目全日本選手権大会等において実技試験を実施し、執務状況および口頭試問による実技試験を実施して合否判定を行いました。

(結果) 合格者一覧(9月13日時点)

トラック	伊藤将史(長野)、藤田将志(三重)、佐藤孝之(群馬)	以上3名
ロード	伊藤将史(長野)、芦澤拓郎(茨城)	以上2名
MTB	小川和也(東京)、宮城 力(東京)、鈴木 裕(福島) 長尾博文(岡山)、笹岡美奈(大阪)、浅田裕美(東京)	以上6名(順不同)

(講評)

新型コロナ感染拡大の影響により、全日本選手権等の全国大会の開催されない状況が続き、第1級公認審判員講習会もなかなか実施できませんでした。今回はトラック、ロード、シクロクロスは3年ぶり、MTB、BMXは初の実施となりました。

この間、講習会の実施形態も、集合による講義形式から一部オンライン・リモート形式での実施が可能になり、大人数が集合する共通事項の講習会はリモート形式で行い、講習後googleフォームによる試験を実施しました。各種目の専門講習会は、人数を絞っての集合形式で行い、グループ討議によるケーススタディや筆記試験を実施しました。2月～3月にかけての対面方式講義講習は新型コロナ第6波の中での実施となり、受講者のうち数名が不参加となってしまいました。

筆記検定合格後の実技講習は、今年度6月以降の各種目全日本選手権大会やUCIカレンダー登録国際大会等で順次実施しているところです。

現在、各種目の1級公認審判員資格所持者においては高齢化が進んでおり、5年後、10年後の大会運営を見据えると、30～40代の若年層の1級公認審判員の養成が急務となっています。「チーフコミッセルは原則として、1級公認審判員があたる」(JCF規則第54条)となっており、1級公認審

判講習受講者は、合格後は各種目全国大会のチーフコミッセルを務めるにたる力量が期待されており、2級公認審判員時代に様々なポジション・チーフや地域大会のチーフコミッセルを努めて十分な経験を積まれていることが期待されています。各加盟団体におかれましては、地域別大会等の実施時に、若手の2級公認審判員や1級審判員受講希望者を積極的に責任あるポジションに起用するなどし、将来大会運営を統括できる人材の育成に取り組んでいただくようお願いいたします。

昨年、東京2020オリンピック・パラリンピックを終えましたが、各種目の国内大会のさらなる発展、また国際大会の誘致のためには、優秀な審判員により運営される安全で円滑な大会の開催が不可欠であり、審判員各位が更に技量の向上に努め、経験を積まれてより上級資格へ挑戦されることを期待しております。

以上